

平成13年11月9日

中国・龍門石窟の保存修復協力について

1. わが国政府は、11月8日（木）、ユネスコが行う中国・龍門石窟の保存・修復事業（第1期プロジェクト）に対し、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金より62万3,798米ドルを支出することとした。
なお、龍門石窟の保存・修復事業に関する運用取り決め書への署名式は、11月10日（土）、龍門石窟において、中国政府とユネスコ北京事務所との間で行われる。
2. この事業の第1期では、遺跡の劣化原因に関する調査や、第2期に予定される修復のための実験・科学的分析、人材育成等が2年間で行われる予定である。
3. なお、龍門石窟に対する協力は、1998年の江沢民国家主席訪日時に日中首脳間で合意されたシルクロード文化遺産保存協力の一環であり、1999年7月の小淵恵三総理（当時）が訪中した際に、保存・修復の対象の一つとして中国側との合意により決定された経緯がある。また、同石窟は、2000年にユネスコ世界遺産リストに記載されている。

（参考）

1. ユネスコ文化遺産保存日本信託基金
平成元年にユネスコに設置し、平成12年度までに計3,799万8,000ドルを拠出。文化遺産として世界的に価値が認められながら、崩壊の危機に瀕している文化遺産の保存・修復事業に対し、この信託基金を通じて協力を行っている。
2. 龍門石窟
江南省洛陽の南約13kmに位置し、北魏から北宋までの400年間で断続的に造営された仏教石窟群で、伊水河兩岸の大小2,000以上の洞窟には、約11万體もの仏像が見られる。現在、風化などの自然的要因や人為的破壊により損傷が顕著となっている。